

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571400148		
法人名	あいの土山福祉会		
事業所名	グループホーム エーデル土山		
所在地	滋賀県甲賀市土山町北土山2062		
自己評価作成日	平成23年4月22日	評価結果市町村受理日	平成23年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

甲賀市の東部、土山町にあり豊かな自然と澄んだ空気に包まれた施設です。利用者5名と小規模で、平均要介護度が2.4と低く、特養との併設施設であるというのが大きな特徴です。認知症の進行が少しでも緩やかになるよう、専属職員2名が馴染みの関係を大切にしながら、日常生活の家事全般を利用者と職員が一緒に行っています。利用者の目線に合わせた受容の姿勢で接し、今までの生活の中で覚えてこられている経験を引き出すことに着目して、残存能力を十分に活用することで、利用者の生活意欲の向上と、自信の回復につながればと考えています。利用者が心身共に健康に良好な人間関係の中、充実した施設生活が送れるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2571400148&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に恵まれた立地条件にあり、特養、ショートステイやデイサービス施設と併設されているため、利用者が友人や知人と自由な交流を楽しんでいる。軽介護度(平均2.5)の4名(調査時)に専属職員2名が行き届いた介護を実施しているので、利用者と家族の満足度は非常に高い。管理者以下の職員が平均年齢も極めて若く、フレッシュで力強い感じの事業所である。「至誠」を理念に掲げ、行動宣言として5つのTHE EDEL WAYを定め、「すべては利用者のために」「スタッフが楽しくいきいきと活躍できるように」、さらには「社会とともに成長しながら介護業界を変えていこう」と訴えている。毎週火曜日に協力医の往診があり、健康面でも利用者は安心して暮らしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成23年5月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「至誠」を基本姿勢に、明るく楽しい開かれた事業所を目指している。ワーカー室には理念を掲示して、毎日確認し、実践に向けて取り組んでいる。法人行動宣言のひとつには「社会とともに成長を」と掲げている。	「至誠」を基本理念とし、社会や住民に信頼され支持されるような「地域の共有施設」や「開かれた事業所」をめざしている。玄関、ワーカー室や職員の名札にも理念を掲示して共有し、実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉活動センターでのボランティア等に太鼓鑑賞や障害者の方とのあすなるのつどい、ひとり暮らしの方とのしゃくなげのつどいにも参加している。年2回は地域美化奉仕作業として利用者と職員と一緒に施設周辺のゴミ拾いを行っている。	年2回美化奉仕作業を行い、利用者と職員と一緒に周辺のゴミひろいで汗を流して地域に貢献し、ぜに太鼓、文化祭などにも積極参加している。保育園児や小学生の来所や中学生の体験学習も多い。近くに民家がなくて自治会には未加入である。	介護教室、見学会やイベントを実施して地域の人達により多く来てもらうような活動実績を積み重ねた上で、近い将来自治会加入も期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学校の職場体験に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1回定期的に行い、現状報告をし、家族からの要望を積極的に聞いている。そこでの意見はサービス向上に活かせるよう対応している。	家族、包括支援センター、民生委員、事業所の管理者と職員で年6回実施している。現状や行事の報告、自己・外部評価課題の検討などを行い、改善取り組みのモニター役を果たしている。議事録も完備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とサービスについて前向きな話ができるよう努めている。独自の広報誌「5丁目だより」を発行し、広く地域に活動内容を理解してもらえるよう努力している。	市の地域包括課に現状を報告し、意見交換している。広報誌「5丁目だより」は家族、周辺の特養・グループホーム、市役所、民生委員などに約50部配布し、広く地域に事業所の活動内容を理解してもらえるよう工夫している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「リスクマネジメント委員会」を中心に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束は一切していない。	基本方針に「人権尊重を最優先に、自尊心や尊厳が損なわれず安心して過ごせる場と時を提供します」と掲げ、身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。昼間は玄関の鍵をかけず事務所を含め職員が絶えず見守っている。研修も年3回行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「リスクマネジメント委員会」を中心に、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加している。現状では該当される利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点については気軽に聞いてもらえるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があれば管理者に報告、要因を分析し、サービス向上につながるよう努めている。重要事項説明書には苦情解決責任者と外部者への通報先を明示している。	家族との面会時や家族会、運営推進会議で家族の意見をよく聞くように努めている。併せて玄関には意見箱を設置している。事業所と県・市の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム会議を行っている。	全職員が参加する毎月のグループホーム会議で意見をよく聞くとともに、代表者・管理者と職員はキメ細かいコミュニケーションを行っている。外出イベントや広報誌は若いスタッフの意見を十分ヒアリングしながら企画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「労働安全委員会」を中心に、労働組合とも連携を図り、労働環境をより良く改善するために努力している。「チームワーク強化委員会」では、職員通信を発行し、楽しいイベントを企画している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月認知症勉強会を行い、研修会にも積極的に参加し、日頃のケアに役立てている。事業所独自の教育プログラム「アドバンスシステム」を導入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他福祉施設職員と交流会を開催したり、互いの施設見学を実施したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々の意見を傾聴、受容するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に気軽に相談してもらえよう努めている。「接遇向上委員会」を中心に、接遇マネーなどより良いサービス向上を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な社会資源の中から、本人にあった支援を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりに担当者を付け、本人にも家族にもわかりやすいよう居室前に写真を掲示している。裁縫や編み物、花の栽培の仕方など、利用者から学ぶことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	より良いサービスが出来るよう家族と相談しながら行っている。ケアプラン前には家族に意向を聞き、サービス内容に取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特養やデイサービスと併設になっており、馴染みの人とは比較的いつでも出会える環境にある。ショートステイ利用者とも出会える環境である。	特養、ショートステイやデイサービスが併設されているので、馴染みの人とはいつでも会え、継続した関係が保たれている。盆暮れの一時帰宅、墓参りや実家行事への参加などは家族の協力を得て実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の本音を探るため「気持ちシート」を作成し、より良いサービスが提供出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設している特養との兼務であるが、生活相談員を配置している。生活相談室で、いつでも対応出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向にそえるケアプランに取り組んでいる。	できるだけ利用者の意向を叶えるために、本人の意向をくみ取るようにしている。満足度や不満を「気持ちシート」や「失語シート」に具体的に記録し、情報収集と活用に職員あげて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、家族からの協力のもと、今までの人生(生活)を教えてもらう「ライフサポートチャート」を記入してもらっている。職員はこの情報を大切に、入所後のケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「生活日誌」「介護経過記録」「連絡ノート」を活用し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よく話し合い、ニーズにそえるよう努めている。「ケアプラン委員会」を中心にケアプランの内容充実に向けて努力している。	事前に利用者、家族、職員や看護師とよく話し合い、本人の生活歴や意向が反映された介護計画になるよう配慮をして作成し家族の承認を得ている。6ヶ月ごとの見直し介護計画にも家族の署名や承認印も得ている。	特に状態に変化がなくても、介護計画の見直しは3ヶ月ごとに1回は行い家族の承認を得ることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「生活日誌」に加え、「介護経過記録」を記入し、ケアプランの見直しに活かせるようにしている。「情報管理委員会」を中心に、情報の管理、活用についてもより良いものになるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養と併設しているので、行事等多様に行える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や踊り、大正琴など「ボランティア委員会」を中心に、ボランティアには多く協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している特養の施設医を主治医にしており、連絡体制が取れている。	利用者や家族の希望により、かかりつけ医にも協力医にも診てもらえる。毎週火曜日に協力医が往診に来ている。往診の結果は、都度家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している特養の看護師と連絡体制を取っている。「感染対策・スキンケア委員会」を中心に、感染症や皮膚疾患の知識向上にも努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設している特養との兼務であるが生活相談員を配置し、各病院の地域連絡室とも協力を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルは行っていない。施設の設備上、重度化した場合の対応には限界がある。	事業所の設備上の問題もあり、ターミナルケアは実施していない。この方針は重要事項説明書に明記している。重度化した場合には、利用者の心身状況、置かれている環境などを勘案し、介護保険施設等の案内や必要な援助を行うよう努めている。	左記の問題点もふまえ、利用契約書にもターミナルケアは実施していない旨を明記し、基本指針の共有化をさらに徹底していただくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており、甲賀市消防より隊員に来所してもらっている。	事業所内には火災報知機、消火器や煙・熱警報器があり、各部屋にはスプリンクラーを完備している。避難経路などのマニュアルも完備し、避難訓練は消防署指導のもと年2回実施しているが、地域の協力体制は不十分である。	災害時の人命確保には地域の協力が不可欠である。地域住民参加の避難訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声かけを心がけている。	各人のプライドを尊重し、ことば使いには特に注意し、「声かけは平等に」「対応は優しくていねいに」を心がけている。個人ファイルなどは施錠できる機の引き出しに保管し、個人情報利用同意書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲で、個々のペースに合わせた生活をしてもらえよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は施設に来所する業者に依頼している。本人が望む店があれば、家族と行けるような体制を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は利用者と職員が協力して自炊・片付けを行っている。	昼食は利用者と職員と一緒に調理、朝・夕食は特養で調理したものを食している。利用者と職員は同じメニューと一緒に食し、準備や片付けは全員で行っている。新年会、花見、紅葉狩りなどの際の外食も利用者は楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設している特養の管理栄養士と連携を図り、栄養に関する対応を取っている。量などは一人ひとりに合わせている。「給食委員会」を中心に、美味しい食事を提供出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた声かけや介助を行っており、週一回は義歯洗浄剤を使用している。口臭のある利用者は、毎日義歯洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人に合う下着を着用してもらい、トイレ誘導や介助を行っている。	個人別の排泄リズムの把握に努め、声かけや誘導を行っている。できるだけトイレで排泄できるように自立の支援をしているが、万一失敗した場合は自尊心を損なわないように着替えを促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物を温かいものにしたり冷たいものにししたり、毎身体操を取り入れたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は職員が決定している。本人の希望があれば、その時に対応出来るような体制を作っていくたい。	週3回の入浴日や時間帯の基本は職員が決められているが、利用者の希望により柔軟に対応している。汗をかいた場合や汚した場合も状況に応じて入浴することが可能である。ゆず風呂や入浴剤入りなど楽しい入浴の工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝時間は自由であり、本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設している特養の看護師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつや買い物には利用者と職員が一緒に行き、好みの物を購入出来るようにしている。花を共有スペースに飾っているが、生けるのは生け花経験者の利用者である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの外出希望には応じきれず、要望があれば家族に依頼している。事業所としては地域・季節に応じた外出を利用者の意見も聞きながら計画している。	事業所として花見、運動会、祭り、一泊旅行など年間22回くらいの外出イベントを企画し実施している。買い物は月に1~2回近くのスーパーへ出かける。好天時には、月に数回職員と散歩することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額は個々で管理してもらっている利用者もいるが、それ以外はトラブルにならないよう家族が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設している特養内に2ヶ所の公衆電話があり、要望があれば自由に使用出来る。手紙に関しても、やり取り可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で居心地の良い空間づくりに努めている。壁面には季節感のある作品を展示したり、3月には雛人形を飾ったりしている。季節の花は毎日かかさないようにしている。	食堂兼広間は天井が高く、明るくて広い。空調コントロールも良好で、トイレや廊下などの要所には手すりが取り付けられている。トイレは清潔で1坪の広さがあり、車いすの利用が可能である。広間の季節ごとの生花は利用者を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを3台設置し、椅子やソファを自由に使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手紙を飾ったりして、心地よく過ごしてもらえるように対応している。	居室は約8.6畳の洋間で、整理や清掃が行き届き、シーツなどは清潔である。家族の写真や手紙、孫の作った作品などを飾っている。部屋の温度調節は職員が行い、快適な温度に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている。浴室は一般浴のみであり、下肢筋力が低下すると入浴は難しい。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	設備上の問題と、入所者5名と言う少人数である利点を活かし、気軽に外出等で地域に出かけられる環境を大切にする為、概ね要介護度が1～2であることを利用条件としている。介護度が進行した時の退所先など本人・家族の不安が懸念される。	家族に十分な説明を行った上で、納得の行く退居先に移れるよう支援する。	・要介護度3になれば、直ぐに退所でなく、介護認定有効期間(概ね1年)は経過処置期間を設け、家族にも再度十分に説明し、その間に施設情報などを提供し退所支援する。	12ヶ月
2	35	現在、施設では年2回非難訓練を実施しており、地域の民生委員にも参加して貰っているが、災害時の人命確保には地域の協力が不可欠である。	避難訓練時には、今以上に地域の協力が得られるようになる。	・防火管理者とも連携し、年2回の避難訓練時には、地域の消防団・自警団にも協力依頼する。 ・民生委員にも協力して貰い、地域住民に避難訓練日時の情報提供と、参加依頼を促して貰う。	12ヶ月
3	45	入浴の曜日や時間帯は職員が決定している。	本人の希望があれば、その時に対応出来るような体制づくり。	・入浴日以外に要望があれば、比較的实施しやすい足浴やシャワー浴で対応し、今後希望が多くなっていくようであれば、職員の勤務体制の見直しをする。	12ヶ月
4	55	バリアフリーになっているが、浴室は一般浴のみであり、下肢筋力が低下すると入浴は難しい。	個々に応じた入浴介護技術の向上。	・個人浴の介護技術向上の為、外部研修に参加し、GH勉強会などでフィードバックする。 ・併設する特養とも連携する。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。